

建造物の部

しんによじ 真如寺

京都市北区

法堂修理

概要

臨済宗の大本山相国寺派に属する万年山真如寺は、鹿苑寺、慈照寺と並ぶ相国寺の山外塔頭であり、その開山は鎌倉円覚寺の開山でもある中国宋の高僧仏光国師（無学祖元）と伝える。

今回修理を行った法堂は明暦2年（1656）の建立で、建物正面には本尊を安置する仏殿や本堂を意味する「大雄殿」の額を掲げる。桁行5間、梁行5間、一重、入母屋造、棧瓦葺で、北面に祖師の像や位牌等を安置する昭堂及び下屋が増設されている。本法堂は、近世初期の禅宗寺院にみられる意匠豊かな建築である。

修理は近年劣化が目立ってきた昭堂及び昭堂に取り付く下屋部分を主として行い、法堂内部の建具補修及び外壁面の塗替え等も併せて行われた。



法堂

いわやでら 岩屋寺

京都市山科区

本堂修理

概要

赤穂浪士大石良雄（内蔵助）の隠棲地としても知られる山科区の岩屋寺は、神遊山と号する曹洞宗の寺院である。境内にはこの本堂のほかに明治期に建立された木像堂や庫裏、大石良雄の遺髪塚などがある。現本堂は嘉永7（1854）年に京都西町奉行で浅野家の縁戚にあたる浅野長祚らの寄進により再建されたものであることが棟札により確認できる。近年、雨漏りがひどくなり、また屋根を支える桔木が折損する等した為、早急に修理する必要が生じたもので、修理工事は令和2年度、3年度の2箇年で行われた。



修理中の本堂

びしゃもんどう
毘沙門堂

京都市山科区

建具修理

概 要

毘沙門堂は、山科盆地北端の山間部にある天台宗五箇室門跡のひとつである。

寺伝によると創建は大宝3年(703)文武天皇の勅願で僧行基によって開かれたとされ、当初は出雲路(上京区、御所の北方)にあったことから護法山出雲寺といった。

境内には宸殿、霊殿、玄関、庫裏などが建ちならび、門跡寺院らしい景観を今に伝えているが、これらの建造物の多くが京都市の有形文化財(建造物)に指定されている。

今回修理を行った霊殿の襖一面は公開時において棄損したものとみられるが、他の画面には蓮ともみられるものが描かれた痕跡をわずかにみとめる。



霊殿南面襖

美術工芸品の部

いちひめじんじゃ

市比賣神社 京都市下京区

木造獅子狛犬修理

概要

市比賣神社は、社伝によると延暦 14 年(795)に左大臣藤原冬嗣ふゆつぐが平安京の官営市場である東市・西市の守護神として宗像三神を東市に勧請したのがその起こりと伝える。今回修理を行った木像獅子狛犬一対は、室町後期から桃山時代の製作と考えられており、向かって右側に置かれて口を開けているのが「獅子」、左側の口を閉じているのが「狛犬」で、狛犬には頭に角がある。また、口を開けている獅子は阿形(あぎょう)、閉じている狛犬は吽形(うんぎょう)とも呼ばれている。像高は獅子が 75.6cm、狛犬が 88.2cm を測る。

獅子・狛犬ともに檜材の寄木造りで彩色を施すが、両像ともに剥落が進行し、漆塗や彩色が下地から浮き上がっている状態でもあるため修理が行われた。



木造獅子(右)狛犬(左)

じょうこうじ

城興寺 京都市南

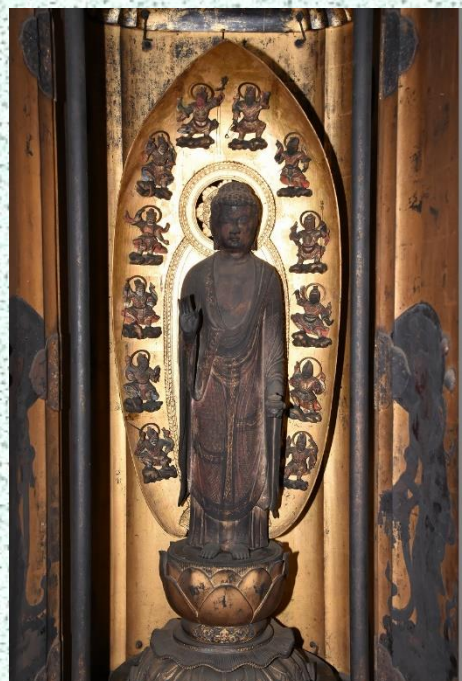
木造薬師如来立像修理

概要

城興寺は、真言宗泉涌寺派の寺院で瑞宝山と号する。

現南区の東九条烏丸町に所在するが、この辺りは太政大臣藤原信長の邸宅九条殿のあったところで、ここを伝領した知足院関白藤原忠実(1077~1162)が永久元年(1113)にこの地を寺に改めたものと伝わる。

今回修理を行った木像薬師如来立像は、室町時代に製作されたもので、像高 68.8 cm を測る。檜材、寄木造り。截金文様・彩色仕上げで、内割りを施す。全体に亘り衲衣の截金文様や彩色部分に剥離や剥落箇所がみられ、埃を被り汚れているため、修理を行うこととなった。



木造薬師如来立像

ねんぶつじ

念佛寺 京都市右京区

鉄造阿弥陀如来坐像修理

概要

念佛寺は浄土宗西山禅林寺派に属する寺院で紫雲山と号する。寺伝によると開山は、天台宗の開祖最澄上人の母妙徳尼(747~817)によるとされる。この地は比叡山延暦寺の飛地であったことから「山ノ内」と呼ばれたもので、妙徳尼はここで生まれ、ここで没したという。

今回修理を行ったのは、当山の本尊である鉄造阿弥陀如来坐像で、像高は49.3cmを測るもので、他の在銘像との比較から13世紀半ばの作とみられている。この頃の鉄仏は、東日本に多く分布しており、関西での分布は全体の1割程という興味深い傾向がみられる。現状、左手首先が脱落した状態にあったため、修理が行われた。



阿弥陀如来坐像